

1. 研究成果のまとめ

入念な準備を経て、9月2日・3日の両日は鹿角市の中心市街地にある関善賑わい屋敷に全員で出向いて研究を行ないました。

NPOのスタッフの方から説明を受け、現地調査、ヒアリングを行った上で街の整備像、屋敷・蔵の活用像を現地で検討しました。書類やインターネットの情報では得られない現地の情報、街の雰囲気に関し、各班は模造紙に向かってマーカーを走らせました。その様子も付録として添付してありますので、是非ご覧下さい。

3日の午後には、手書き状態ですが中間発表を行いました。大学に戻った後、中間発表会で得た指摘事項も踏まえて研究成果をポスターとパワーポイントを使ってまとめ、地域発表会を10月3日に再度出向いて開催しました。

ここでは、そこで発表した内容を紹介します。



まち環境班

光る ✨ 地域資源

大町グループ
六日町グループ



まち環境班概要

目的

鹿角市花輪中心市街地の再生・活性化に繋がる
活用像、整備像等の提案を行うこと

再生・活性化→人の往来



回遊性の向上が不可欠

方針

花輪中心市街地には魅力的な地域資源が多く存在する

これらを活かすことが文化の継承となり
持続的なまちづくりとなる



地域資源を活かし、新たな価値を見出すことにより
持続的なまちづくりを目指す

理論

人の歩ける距離＝約400m→約10分程度

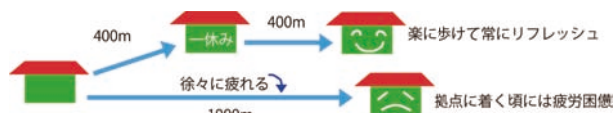
約400mごとに足を留める空間を配置



無理のない回遊が可能



人の往来が多くなる＝活性化



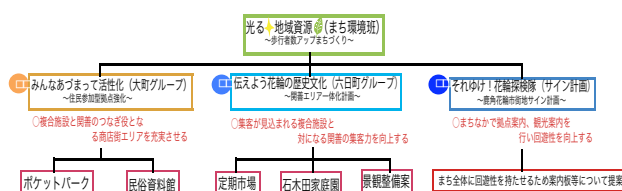
7つの拠点



拠点間の距離＝約400m以下

→新しい拠点の設置ではなく拠点の強化が回遊性向上になる
集客力が見込まれる複合施設と対にある開善の集客力を向上する
複合施設と開善のつなぎ役となる商店街エリアを充実させる
既存商店街：新町・大町地区→大町グループ
旧開善酒店・定期市場地区→六日町グループ

グループ構成



(1) まち環境班

①みんなあつまって活性化-住民参加型拠点強化-

まち環境班 大町グループ

○菅原功子・B4 小熊耕平・M2

小玉彩子・B4 篠原美由希・B4

(○はグループ長)

■現状把握

大町グループは、まち環境班の方針である4〇〇*¹理論に基づき、大町エリアの地域資源ポケットパーク周辺及び民俗資料館周辺の住民参加型拠点強化をテーマとした提案を行った。

現地調査と地域住民の方にヒアリング調査を実施し、地域の現状を把握した。その結果、大町アーケード街では町内会によるまちづくりが実施されていた。具体的には、商店街アーケードの色彩の統一、ベンチ・プランターの設置等、独自の取り組みがなされており、総じて住民の地域への関心が高いことが把握できた。

さらに、検討対象地域の調査・スタディを行った結果、ポケットパーク周辺は、1) 大堰沿いの景観の統一性に欠ける点、2) 夜の大堰沿いの人通りの少ない点、3) ポケットパークの利用の少ない点、以上3点がわかった。

また、民俗資料館周辺は、施設の老朽化が進んでおり修復が必要である点、施設修復のためのリニューアル案として資料館の新機能の構想がある点、また立地の特徴として児童館が隣接している点、以上3点がわかった。

■方針と提案

現状把握を踏まえ、提案の方針を「統一したデザインの創出」、「住民が誇る魅力的景観整備」、「鹿角市民が参加できるしかけ提供」の3つとした。さらに、具体的な空間整備イメージとして、ポケットパーク周辺は「かづの銘酒とポケットパークをつなぐ親水空間」、民俗資料館周辺は「こどもの活躍の場」として整備することとした。

「かづの銘酒とポケットパークをつなぐ親水空間」では、駅前通り（中央通り）のポケットパーク、大堰沿い、かづの銘酒にそれぞれ恋愛成就スポットとなる休憩カフェ、水車の設置、壁面デザインを提案した*²。ポケットパークには活用促進のために恋愛成就をコンセプトとし、ポケットパークの1Fに休憩所、2Fにハートロックを設けた。大堰沿いには防犯のため街灯を設置し、景観向上のため水車を設置した。かづの銘酒は壁面デザインを統一し、大堰沿い通りに一体感を創出した。

「こどもの活躍の場」では、資料館とその庭にそれぞれ絵本ギャラリーとこどもの遊び場を提案した。資料館には絵本ギャラリー・WS室・古本市の拠点を設け、施設に新機能を組み入れた。

資料館前庭は遊び場・民俗資料の体験スペースを設け、近隣の児童館との連続性を創出した。

■今後の展望

大町エリアを取り巻く2つの地域資源の拠点強化を行うことで、大町エリア全体の更なるまちづくりの相乗効果を図った。これによる期待は、第一に孤立していた資源が「まちをつなぐ資源」に生まれ変わる。第二に住民の「憩いの場・新たな活動の場」を促せる。第三に地域資源の利用を促進する。この3つが果たされることで各拠点に訪れる人が徐々に増え、地域資源の利用増加が期待される。

- * 1 4〇〇（ヨンマルマル）理論：「人が歩きたくなる距離は400m」という経験則に基づき、歩行者の回遊性を高めるため、まちの観光スポット、休憩施設等を400mおきに配置するという理論。
- * 2 駅前通りのポケットパークは、元々、恋人たちのための空間をコンセプトに設計された経緯がある。

大町グループ

大町エリア

○B4 菅原功子
B4 小玉彩子
B4 篠原美由希
B3 伊藤正太
M2 小熊耕平

みんなあつまって活性化

～住民主体型拠点強化～

大町の現状分析

アーケード街

町内会によるまちづくりが実施



- ・統一されたカラーの柱の装飾
- ・プランター、ベンチの設置

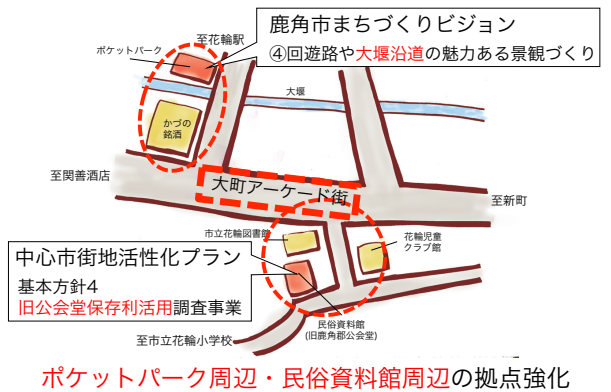


大町住民のまちづくりへの関心が高い



近隣の地域資源でさらなる大町まちづくり拡大

大町にかかる鹿角市まちづくり



方針

- ①かづの銘酒とポケットパークをつなぐ親水空間
- ②こどもの活躍の場



- 統一されたデザインにより一体感を創出
- 住民が誇り住み続けたい魅力的な景観整備
- 鹿角市民が参加できるしかけの提供

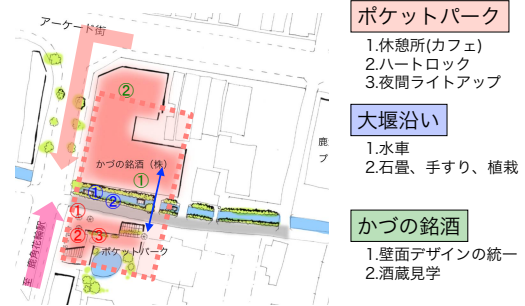
提案

- 提案①ポケットパーク周辺
- 提案②民俗資料館周辺

提案

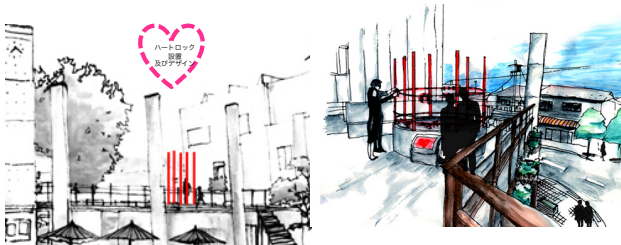
提案①ポケットパーク周辺
提案②民俗資料館周辺

提案①愛と憩いの親水空間



ポケットパーク

1. 休憩所(カフェ)
鹿角市活性化プラン基本方針1
②憩いのスペースの整備より
2. ハートロック
ポケットパークは恋愛成就の神様
というコンセプトにより設置された



ポケットパーク

3. 夜間ライトアップ

夜間は大堰沿いは暗く人通りが多くない(住民のヒアリング)ことから
防犯のため、街灯を設置し安全な環境にする。



大堰沿い

1. 水車
景観向上を目的とした親水空間を
設け、散水に利用する。
2. 石畳、手すり、植栽
ポケットパークとかづの銘酒に
連続性を持たせる

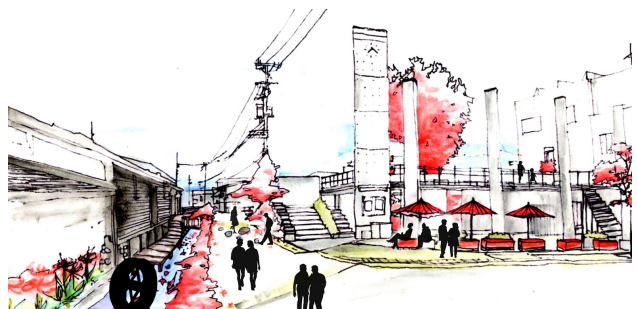


かづの銘酒

1. 酒蔵見学
JR主催のまちあるきルートの
拠点に入っている。
2. 壁面デザインの統一
かづの銘酒の壁面デザインを統一
かづの銘酒とポケットパークに
一体感を持たせる。



提案①提案完成イメージ



提案

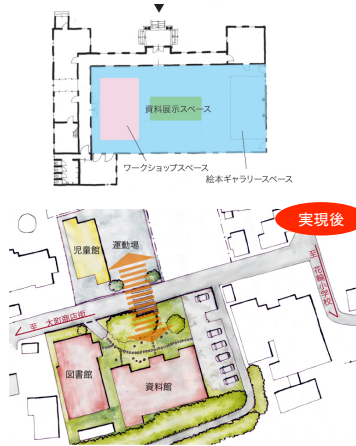
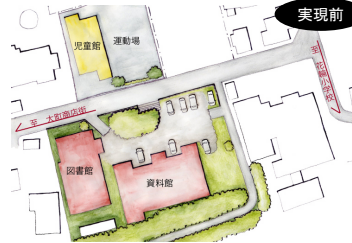
提案①ポケットパーク周辺
提案②民俗資料館周辺

提案②つくって学ぶ子どもの活躍の場

民俗資料館周辺

具体的な特徴

- ・修復の動きがある
- ・資料館に新機能の構想を具体化
- ・児童館に近接



資料館

- ①絵本ギャラリー
- ②ワークショップスペース
- ③民俗資料の展示スペース

資料館前の庭

- ④子どもの遊び場
- ⑤民俗資料の体験スペース
- ⑥古本市の会場



資料館

- ①絵本ギャラリー
手作り絵本・古絵本閲覧スペース
- ②こどもWS室
テーマを決めて絵本とオブジェ制作
年に2回程度の作品展を開催
- ③古本市の拠点
受付・休憩所の設置



資料館前の庭

- ④子どもの遊び場
簡易な遊具の設置
- ⑤民俗資料の体験スペース
木工や餅つきの実施
- ③古本市の会場
資料館の展示に合わせて、
地域住民が各自持ち寄って開催

全体像



まとめ

提案1.愛と憩いの親水空間

提案2.こどもが活躍する絵本ギャラリー

- ①孤立していた資源が「まちをつなぐ資源」に生まれ変わる
- ②住民の「憩いの場・新たな活動の場」を目指す
- ③地域資源の利用を促す



各拠点に訪れる人が徐々が増え、
地域資源の利用増加が期待される

補足 提案①



かづの銘酒

1.酒蔵見学

JR主催のまちあるきルートの拠点に入っており
需要があることから実施。

2.壁面デザインの統一

かづの銘酒の壁面デザインを統一し、かづの銘酒
とポケットパークに一体感を持たせる。



てづくりえほんができるまで



補足